

12. 近世後期岩座神村の災害と村の対応

島村 朱音

はじめに

本稿では、岩座神地区文書から読み取れる近世後期の災害とそれに対する村の対応について述べる。第1節では獣害に関する年貢徴収方式の変更について、第2節では水害に関する新道普請、第3節では元治2年（1865）に発生した杉原谷地震の被害規模を分析する。

1. 獣害に関する定免の願書（岩座神地区文書 1-101）

・史料本文

乍恐以書附奉願上候

播州多可郡

岩座神村

一私村方之儀者千か峯与申高山谷間ニ御座候而、多可郡之内ニも別而土地柄悪ク猪鹿猿多ク諸作物喰荒し極困窮難渋之村方ニ御座候、尤御検見取被為 仰付候得者、其年之作方出来数ニ応シ御取箇被為 仰付候之御儀ニ御座候得共、前文ニ奉申上候通之極山中谷入之村方ニ御座候故御検見前後一日一夜之内ニも大ニ喰荒し内損多ク尚又年々之麦作等も格別生立相努メ同郡之内ニも格別内損多ク難渋之村方ニ御座候ニ付、何卒御定免被為 仰付被 成下度乍恐右之始末厚ク御仁恵を以御勘考被為 成下去ル文政九戌年去卯年迄御取箇平均式拾八石九斗六升六合ニ壺合之増米を以都合式拾八石九斗六升七合御取箇ニ而、当辰年去来ル丑年迄拾ヶ年御定免被為 仰付被為 成下度乍恐御取調之上格別之厚ク御憐愍を以幾重ニも御定免被為 仰付被為 成下候様奉願上候、右願之通御聞濟被為成下候ハ、広太之御^(縁力)悲 悲偏ニ難有奉存候、依之乍恐右之段御願奉申上候、以上

播州多可郡

岩座神村

百姓代

藤左衛門（印）

天保三年

年寄

辰二月

和平（印）

庄屋

藤四郎（印）

小堀主税様 御役所

天保3年（1832）2月に書かれた獣害による収穫減少のための定免願書である。岩座神村は多可郡の中でも特に土地柄が悪く、猪・鹿・猿が作物を食い荒らすため難渋していた。検見取を指示されていたが検見前後の一日一夜の内にも喰い荒らされ内損が多く、麦作などにも努めている。しかし郡内でも格別内損が多いため定免を願い出ている。岩座神村の村方三役（庄屋藤四郎、年寄和平、百姓代藤左衛門）から小堀主税役所へ差し出された。小堀氏は京都代官であり、幕領と朝廷領の支配を担当していた（高橋伸拓2018）。

まとめると、猪・鹿・猿の獣害により収穫が減り難渋・困窮しているため、年貢の徴収法を今までの検見法から10年間の定免法への変更を願う文書である。検見はその年々の立毛や収穫量から年貢を決め、定免は一定期間の取箇の平均から数年間豊凶に関わらず一定の年貢を徴収する方法である。獣害によって収穫高が減るといふ状況ならば、豊凶に応じて年貢高が変わる検見の方が適しているように思えるが、検見を行う役人の接待に関わる費用の削減、計画的な農業経営の実施、作物の蓄積などの利点がある（佐藤常雄「検見取法」「定免法」）。役所へ提出されたものであるが岩座神村に残っており、押印されていることから公的に効力を持つ控か却下されたものであると考えられる。

2. 新道普請の寄進帳（岩座神地区文書 1-31）

・史料本文

（表紙）

「明治三	世話人
午十月	岸上村
	重太夫
新道普請奇進帳	中村町
	忠治郎
岩座神村	安坂村
御役人中様	定助
御村中様	間子村
	利兵衛
	鍛冶屋村
	惣右衛門」

一筆致啓上候、追々向寒之砌ニ御座候所、倍々各々様方御壯健ニ被遊珍重之至ニ奉存候、然者高岸皮多傍示川縁、近年大水節存外崩込大破ニおよひ牛馬通行難相成候、此段当支配之御役所様へ出願仕候処御聞濟ニ相成候得共、何ら無高之場所故手当銀等者御下ケニ不至、最寄村々ハ不及申道筋村々之人足持合ヲ受普請来候様ニ被仰渡候ニ付、誠ニ申兼候得共御村方之御他力ヲ以普請成就仕度候、厚き御合力之程偏ニ奉願上候、先者右之段辱以如斯ニ御座候、恐々謹言

明治3年（1870）10月に書かれた新道普請のための寄進帳である。高岸傍示の川縁が近年の洪水の際大破し牛馬通行が難しい状態となり、役所へ出願したところ聞き届けられたが、無高の場所であるため手当銀などは下付されなかった。最寄りや道筋の村々で人足を持ち合わせ普請するように指示があったため協力を願い出ている。岸上村の重太夫・中村町の忠治郎・安坂村の定助・間子村の利兵衛・鍛冶屋村の惣右衛門が世話人として連名で岩座神村の役人へ提出している（図1）。まとめると、普請を行う人足を集めるために岩座神村へ寄進が依頼された。時候の挨拶から書き始められている書状形式が特徴的である。

明治3年頃の水害について調べたところ、明治2年に現愛媛県域で多雨、岡山県で大雨による洪水が発生しており（倉敷市）、明治3年には9月の台風で香川県が風水害、9月7日に高知県で大洪水が発生している（四国災害アーカイブス）。兵庫県の水害記録は確認できなかったが、近隣の県で降雨や台風による災害が発生しているため、兵庫県内でも発生した可能性がある。

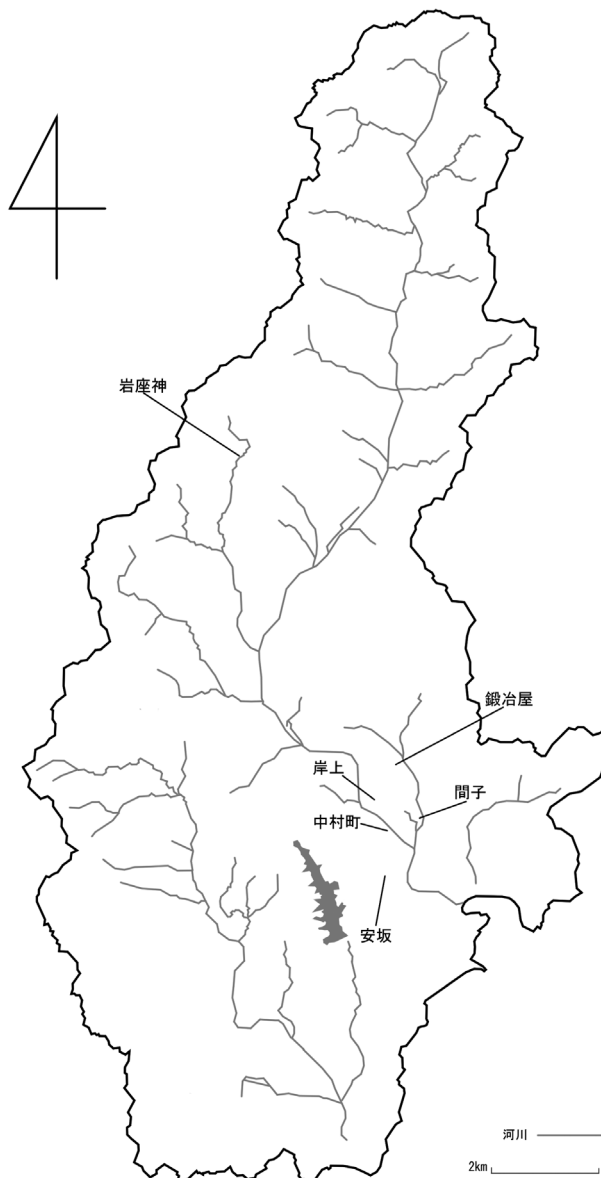


図1：地区の位置関係

役所からの手当が出ていないのは「無高之（Google Mapをもとに筆者作成）場所」であることから、年貢徴収に結びつかない場所のためである。また一方で明治初期は政治体制が大きく変わり地方行政も変化しつつある時期でもあり、移行期の混乱も理由の一つとなるのではないだろうか。実際、岡山県倉敷の水害復興では地方行政の変化によって、倉敷川の堤防を人為的に切って排水するという慣行について実施協議がなされず混乱したようだ（倉敷市）。

また、近世は工事の規模によって、幕府が公費で行う公儀普請や、関係村落が村費で行う自普請に分かれていた（国土交通省2014）。この史料での道路修理は自普請を求められ、費用の負担は役所ではなく村だったと考えられる。

3. 地震損地小前書上帳（岩座神地区文書 1-72）

・史料本文

（表紙）

「元治二年

地震損地小前書上帳

丑二月

播州多可郡

岩座神村」

一高八拾九石六斗七升貳合

此反別拾壹町六反壹畝貳拾壹步

此記

一田高三拾七石七斗七升貳合

此反別三町九反壹步

内一高六石貳斗四升七合 貳口受取

一畑五拾壹石九斗

此別七町七反壹畝貳拾步

此記

高七石三斗九升三合 辰村成

此小前

（中略）

外二御藏大損事二御座候

右之通相違無御座候

百性代

藤四郎（印）

年寄

兵藏（印）

元治貳年

丑二月 庄屋

茂右衛門（印）

斎藤六藏様

御役所

元治2年（1865）2月に杉原谷地震の被害を記した文書である。地震によって損害を受けた土地・所有者が列記され、岩座神村の村方三役（庄屋茂右衛門、年寄兵蔵、百姓代藤四郎）から斎藤六蔵役所へ差し出された。

杉原谷地震は播磨・丹波地方の広い範囲に被害を出した地震である。マグニチュードは6.25と推定されている（東京大学地震研究所）。杉原谷地震によって、65件の居宅、23件の土蔵、約15町（約15ha）の田畑、長さ22間の石垣、その他溜池、往来道、小道、水車、郷蔵、高札場等も被害を受けている（杉原谷地震関係文書）。

史料には全部で169か所の状態について記載されている（表1）。例えば、字向田の1番は他村からの出作が所有しており、下田2畝歩のうち12歩（20%）が荒れたとある。また、石垣は同じく字向田の4番を見ると、長12間・高9尺にわたって被災しているようである。史料に記される場所のうち田畑116か所は被害が50%未満であるが、田畑25か所が50%以上の被害を受けている。場所としては向田が最も広く被害を受けており、1反7畝15歩が損地となっている。次いでかいちが1反15歩、仁王門東が9畝4歩の被害を受けている。被害が少なかったのは吉太夫がいちで3歩、次いで長町が6歩、式ツ□が15歩である。

田畑の等級から見ると、上田が2反7畝3歩と最も広く被害を受けており、次いで中田が2反3畝8歩、下田が1反1畝1歩の被害を受けている。被害割合は23%、23.1%、24.8%と大きく変わらない。被害が少なかったのは下畑で15歩、次いで中畑が2畝18歩、下々田が3畝7歩である。

字竹之本については明治期に描かれた「岩座神村字限図」（岩座神地区文書1-94）と照合すると、北東の字東山に面した辺りの中央付近に被害が出ていることがわかる。被害を受けた土地はこの地図では草生地、山林の区分となっているため田地として復興しなかったとも考えられる。

おわりに

岩座神地区文書から19世紀の災害と村の対応を分析した。第1節は、岩座神の土地柄が悪いゆえに猪・鹿・猿による獣害を受け困窮しているため年貢を定免にしてほしいという役所宛のものである。第2節は、洪水によって道が崩れたが役所からは支援がなかったため新道寄進を依頼するという岩座神村宛の文書であった。年貢の徴収方法の変更や土地が無高の場所ゆえに役所から支援がないことなど、近世の石高制に基づいている。第3節は、杉原谷地震によって岩座神村で生じた被害が記されていた。

本稿で取り扱った災害は、いずれも現代も発生しているものである。現在であれば獣害は電気柵の設置や罟、狩猟によって対策し、水害や地震は自治体や政府、自衛隊などが復興支援をおこなっている。一方、岩座神地区文書からは、獣害は年貢の徴収方式の変更によって解決を図り、水害復興は手当が出ず近隣の村々で協力して行っていたことが判明した。

表1 元治2年(1865)地震損地の一覧(岩座神地区文書1-72)

番号	字	等級	全反数	場所	被害反数	状況	所有者	被害割合(%)
1	向田	下田	2畝歩	外	12歩	荒	出作	20.0
2	同所	下田	1畝5歩	外	8歩	荒	出作	22.9
3	同所	下田	3畝歩	外	1畝4歩	荒	出作	37.8
4	同所	下田	3畝20歩	石垣	12間高所9尺	—	出作	0.0
				外	1畝5歩	荒		31.8
5	同所	下々田	15歩	石垣	10歩高所8尺	—	出作	0.0
				外	3歩	荒		20.0
5	同所	中田	1畝6歩	—	皆	荒	出作	100.0
10	同所	上田	3畝歩	外	2畝20歩	荒	出作	88.9
11	同所	中田	3畝歩	石垣	30間高所5尺		出作	0.0
				外	1畝20歩	荒		55.6
8	同所	上田	3畝15歩	石垣	4間高所7尺		兵藏	0.0
				外	20歩	荒		19.0
14	同所	中田	3畝20歩	石垣	17間高所7尺		竹藏	0.0
				外	20歩	荒		18.2
17	同所	中田	1畝歩	外	3歩	荒	同人	10.0
20	同所	中田	1畝10歩	外	2歩	荒	茂右衛門	5.0
21	同所	上田	2畝歩	石垣	10間高所□		同人	0.0
				外	12歩	荒		20.0
24	同所	上田	1畝歩	外	10歩	荒	公四郎	33.3
22	同所	中田	1畝歩	外	10歩	荒	辰五郎	33.3
19	同所	下々田	3畝20歩	石垣	4間高所6尺	荒	久四郎	0.0
				外	1畝15歩	荒		40.9
25	同所	上田	1畝歩	外	6歩	荒	同人	20.0
23	同所	下々田	1畝歩	外	5歩	荒	同人	16.7
27	同所	上田	4畝歩	外	1畝	荒	同人	25.0
30	九遠田	上田	2畝10歩	外	1畝10歩	荒	与市郎	57.1
22	同所	上田	1畝3歩	外	12歩	—	文右衛門	36.4
□	きり尾	下田	2畝歩	外	1畝10歩	荒	兵藏	66.7
40	同所	上田	1畝歩	外	9歩	荒	茂右衛門	30.0
41	同所	中田	2畝歩	外	6歩	荒	重五郎	10.0
48	同所	上田	1畝歩	外	8歩	荒	茂右衛門	26.7
49	同所	上田	2畝1歩	外	10歩	荒	同人	16.4
44	同所	中田	1畝歩	外	8歩	荒	久四郎	26.7
45	同所	下々田	2畝3歩	外	6歩	荒	清左衛門	9.5
46	同所	中田	1畝歩	石垣	7間高所1尺		久四郎	0.0
				外	15歩	荒		50.0
39	同所	上田	1畝25歩	外	12歩	荒	重五郎	21.8
43	同所	上田	1畝歩	外	7歩	荒	同人	23.3
53	同所	上田	3畝7歩	外	1畝歩	荒	藤四郎	30.9
55	同所	上田	1畝歩	外	3歩	荒	重五郎	10.0
37	古玉	上田	3畝歩	石垣	25間高所1丈1尺		勘左衛門	0.0
				外	1畝14歩			48.9
57	同所	中田	1畝歩	外	10歩	荒	同人	33.3
58	同所	上田	2畝歩	外	15歩	荒	同人	25.0
59	同所	上田	1畝5歩	外	20歩	荒	同人	57.1
56	同所	上田	2畝歩	外	20歩	荒	同人	33.3
67	同所	中田	2畝3歩	外	20歩	□	勘左衛門	31.7
□	同所	中田	1畝歩	外	14歩	荒	清左衛門	46.7
61	同所	下々田	1畝11歩	—	16歩	荒	同人	39.0

番号	字	等級	全反数	場所	被害反数	状況	所有者	被害割合(%)
67	同所	上田	2畝9歩	石垣	23間高所1丈2尺		同人	0.0
				外	26歩	荒		37.7
62	同所	下々田	1畝15歩	外	15歩	荒	同人	33.3
72	竹の本	中田	1畝歩	外	11歩	荒	重五郎	36.7
73	同所	中田	1畝29歩	石垣	6間高所1丈□尺		太助	0.0
	同所			外	14歩	荒		23.7
82	同所	中田	2畝10歩	石垣	4間高所5尺		茂右衛門	0.0
	同所			外	5歩	荒		7.1
83	同所	上田	2畝歩	石垣	23間高所7尺	皆荒	新三郎	100.0
84	同所	上田	2畝1歩	石垣	23間高所7尺		同人	0.0
	同所			外	10歩	荒		16.4
90	同所	中田	1畝7歩	外	13歩	荒	茂右衛門	35.1
91	同所	中田	1畝歩	外	14歩	荒	太助	46.7
95	同所	中田	6畝20歩	外	3畝2□歩	荒	勘左衛門	45.0
97	仁王門東	中田	1畝25歩	外	1畝1□歩	荒	倉治郎	72.7
102	同所	中田	3畝18歩	外	2畝20歩	荒	勘左衛門	74.1
103	同所	下田	2畝歩	外	1畝3歩	荒	同人	55.0
104	同所	中田	1畝歩	外	25歩	荒	太助	83.3
105	同所	下田	1畝20歩	外	3歩	荒	同人	6.0
110	同所	上田	1畝歩	外	3歩	荒	辰五郎	10.0
108	かや田	上田	1畝11歩	外	4歩	荒	清左衛門	9.8
134	同所	上田	1畝3歩	外	10歩	荒	同人	30.3
118	森の下	上田	2畝歩	石垣	7□高所□		与右衛門	0.0
				外	15歩	荒		25.0
117	同所	上田	1畝歩	外	15歩	荒	同人	50.0
122	同所	上田	1畝歩	外	4歩	荒	半左衛門	13.3
126	同所	上田	1畝5歩	石垣	7間高所□		文右衛門	0.0
				外	20歩	荒		57.1
128	同所	中田	2畝歩	外	1畝□歩	荒	与右衛門	50.0
109	同所	中田	1畝歩	石垣	9間高所□		文右衛門	0.0
				外	20歩	荒		66.7
131	同所	中田	1畝歩	石垣	12間高所6尺		同人	0.0
				外	20歩	荒		66.7
130	同所	中田	2畝歩	外	15歩	荒	佐助	25.0
133	同所	上田	1畝歩	外	14歩	荒	與市郎	46.7
134	竹のはら	上田	1畝歩	外	20歩	荒	友蔵	66.7
135	同所	上田	2畝歩	外	7歩	□	藤左衛門	11.7
				石垣	5間高所7尺			0.0
137	同所	上田	1畝9歩	外	6歩	荒	倉治郎	15.4
138	同所	下田	1畝歩	外	1□歩	荒	与市郎	33.3
139	同所	下田	1畝3歩	外	1□歩	荒	久四郎	30.3
140	同所	下田	1畝歩	外	3歩	荒	藤左衛門	10.0
141	同所	下田	1畝歩	外	15歩	荒	久四郎	50.0
142	同所	中田	1畝5歩	外	5歩	荒	藤四郎	14.3
145	同所	中田	1畝歩	外	4歩	荒	同人	13.3
144	同所	中田	2畝5歩	外	6歩	荒	藤左衛門	9.2
150	太郎右衛門田	中田	3畝23歩	外	16歩	荒	茂右衛門	14.2
151	同所	上田	1畝3歩	外	6歩	荒	辰五郎	18.2
157	同所	下田	2畝29歩	石垣	13間高所7尺		辰五郎	0.0
				外	1畝15歩	荒		50.6
156	同所	下田	2畝15歩	石垣	8間高所9尺		與市郎	0.0
				外	1畝2歩	荒		42.7
159	谷道	中田	11歩	外	3歩	荒	幸三郎	27.3
161	同所	下田	2畝5歩	外	17歩	荒	同人	26.2

番号	字	等級	全反数	場所	被害反数	状況	所有者	被害割合(%)
162	同所	上田	15歩	外	10歩	荒	倉治郎	66.7
163	同所	中田	1畝26歩	外	26歩	荒	同人	46.4
164	同所	上田	1畝3歩	外	15歩	荒	友蔵	45.5
167	あんがいち	上田	1畝3歩	外	23歩	荒	竹蔵	69.7
168	同所	上田	1畝12歩	石垣	13間高所9尺		同人	0.0
				外	6歩	荒		14.3
170	同所	上田	1畝24歩	外	8歩	荒	同人	14.8
171	同所	上田	28歩	外	6歩	荒	同人	21.4
172	同所	上田	2畝19歩	外	10歩	荒	友蔵	12.7
174	同所	下田	1畝3歩	石垣	10間高所6尺		竹蔵	0.0
				外	6歩	荒		18.2
173	かもがいち	上田	3畝歩	石垣	1□高所□		辰五郎	0.0
				外	1畝15歩	荒		50.0
177	同所	上田	2畝1歩	—	12歩	荒	藤左衛門	19.7
182	同所	上田	2畝歩	外	5歩	荒	同人	8.3
181	同所	上田	2畝6歩	外	1畝歩	荒	同人	45.5
183	同所	下田	3畝5歩	外	2畝5歩	荒	同人	68.4
199	同所	中田	1畝24歩	石垣	9間高所5尺		藤四郎	0.0
				外	12歩	荒		22.2
193	同所	中田	2畝歩	石垣	□		同人	0.0
				外	29歩	荒		48.3
188	同所	下田	1畝歩	石垣	5間高所8尺		同人	0.0
				外	5歩	荒		16.7
189	同所	中田	1畝24歩	石垣	8尺高所1丈□尺		同人	0.0
				外	23歩	荒		42.6
194	たざ	上田	1畝歩	外	15歩	荒	藤左衛門	50.0
127	同所	中田	2畝歩	外	28歩	荒	竹蔵	46.7
36	同所	下々畑田	6畝5歩	外	2畝2歩	荒	竹蔵	33.5
114	森の上	中畑田	2畝28歩	外	20歩	荒	平左衛門	22.7
15	同所	中畑田	1畝1歩	外	21歩	荒	同人	67.7
50	竹のはら	下々畑田	1畝27歩	—	27歩	荒	幸三郎	47.4
180	同所	下畑田	2畝3歩	外	1畝歩	荒	竹蔵	47.6
—	森の内	下々畑田	2畝歩	石垣	6間高所1丈5尺		文右衛門	0.0
				外	15歩	荒		25.0
196	向田	下畑田	3畝歩	—	3畝歩	皆荒	出作	100.0
198	長町	中畑田	1畝15歩	外	6歩	荒	出作	13.3
199	むかい田	上畑	1畝15歩	外	4歩	荒	辰五郎	8.9
200	宮の本	中畑田	1畝15歩	外	15歩	荒	与右衛門	33.3
202	東間之下	中畑田	2畝歩	外	1畝3歩	荒	藤左衛門	55.0
204	式ツ□	下々畑田	1畝歩	外	15歩	荒	半左衛門	50.0
209	けんしらふ がいち	中畑田	1畝10歩	外	5歩	荒	文右衛門	12.5
203	同所	中畑田	1畝歩	外	12歩	荒	勘右衛門	40.0
201	同所	上畑	20歩	—	3歩	荒	清右衛門	15.0
211	かいち	下々畑田	1畝歩	外	20歩	荒	清右衛門	66.7
250	同所	下畑田	1畝歩	外	5歩	荒	村持	16.7
230	同所	下畑田	1畝歩	外	5歩	荒	太助	16.7
231	吉太夫がいち	下畑田	5歩	外	3歩	荒	太助	60.0
240	大畠	上畑	5畝歩	外	3畝歩	荒	太助	60.0
245	仁王門東	中畑田	1畝歩	外	15歩	荒	文右衛門	50.0
232	同所	下畑田	1畝歩	外	15歩	荒	勘右衛門	50.0
234	同所	上畑	6畝歩	外	2畝歩	荒	兵蔵	33.3
238	かや田	下々畑	1畝20歩	外	1畝歩	荒	藤左衛門	60.0

番号	字	等級	全反数	場所	被害反数	状況	所有者	被害割合(%)
301	同所	下畑田	3 畝歩	外	1 畝 15 歩	荒	藤四郎	50.0
260	廣畑	上畑	3 畝 15 歩	外	15 歩	荒	太助	14.3
235	かいち	上畑	4 畝歩	外	20 歩	荒	与右衛門	16.7
257	同所	中畑	5 畝歩	外	1 畝 15 歩	荒	佐助	30.0
243	同所	中畑田	2 畝歩	外	1 畝歩	荒	兵蔵	50.0
250	かいち	下畑	1 畝 10 歩	外	15 歩	荒	文右衛門	37.5
255	同所	下畑田	2 畝歩	外	1 畝歩	荒	同人	50.0
260	かいち	上畑	3 畝歩	外	1 畝歩	荒	與市郎	33.3
242	同所	上畑	6 畝歩	外	1 畝歩	荒	藤四郎	16.7
263	かいち	上畑	7 畝歩	外	2 畝歩	荒	幸三郎	28.6
270	谷道	下々畑田	2 畝歩	外	1 畝歩	荒	藤四郎	50.0
268	かいち	中畑田	2 畝歩	外	15 歩	荒	友蔵	25.0
269	同所	上畑	1 畝歩	外	10 歩	荒	藤四郎	33.3
—	—	上田	1 町 1 反 7 畝 21 歩	—	2 反 7 畝 3 歩	荒	—	23.0
—	—	中田	1 町 19 歩	—	2 反 3 畝 8 歩	荒	—	23.1
—	—	下田	4 反 4 畝 13 歩	—	1 反 1 畝 1 歩	荒	—	24.8
—	—	下々田	3 反 1 畝 5 歩	—	3 畝 27 歩	荒	—	13.6
—	—	中畑田	2 反 1 畝 21 歩	—	5 畝 25 歩	荒	—	26.9
—	—	下畑田	2 反 1 畝 26 歩	—	7 畝 15 歩	荒	—	34.3
—	—	下々畑田	1 反 6 畝 21 歩	—	6 畝 5 歩	荒	—	36.9
—	—	上畑	4 町 4 反 8 畝 8 歩	—	1 反 22 歩	荒	—	2.4
—	—	中畑	1 町 3 反 6 畝 7 歩	—	2 畝 18 歩	荒	—	1.9
—	—	下畑	1 町 1 反 6 畝 11 歩	—	15 歩	荒	—	0.4

注：□は虫損による判読不明である。

参考文献

「明治2年の水害」倉敷市歴史資料整備室 <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/36537.htm> (2022/09/10 閲覧)

「明治2年の多雨」、「明治3年の洪水」、「明治3年の台風」四国災害アーカイブス <https://www.shikoku-saigai.com> (2022/09/10 閲覧)

国土交通省 2014 『国土交通白書』 https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10226082_po_np101000.pdf?contentNo=2&alternativeNo= (2022/09/24 閲覧)

「摂津国豊島郡両渋谷村文書」関西大学図書館 https://opac.lib.kansai-u.ac.jp/?action=common_download_main&upload_id=2113 (2022/08/31 閲覧)

高橋伸拓 2018 「京都代官小堀氏支配地の年貢皆済目録」『茨木市立文化財資料館 館報』 3

佐藤常雄 「検見取法」、「定免法」『国史大辞典』吉川弘文館、ジャパンナレッジ版

「多可町指定文化財 杉原谷地震（別名播磨・丹波国境地震）関係文書（熊野部区有文書）」多可町 http://web.town.taka.lg.jp/nakafureai/jpg_img/shiteibunnkazai/link/sugiharadanijisin.html (2023/09/15 閲覧)

東京大学地震研究所 『理科年表』

編集後記

歴史学科2年次の学生を対象に「文化遺産学フィールド実習」の授業を設け、長年にわたって基礎的な調査を実践する場として活用してきた。これまで、数多くの市町でお世話になり、夏休みを中心にフィールドワークをおこない、そのそれぞれの取り組みについては、その後の調査などを経て、単発で報告などにとりまとめてきた。今回、兵庫県多可郡多可町で分野横断的な調査をおこなうことができ、また科研のテーマである山寺研究を裨益する研究成果がまとまったため、本書を編むことになった。多大なご援助をいただいたみなさまに改めて謝意を表したい。(ひ)

表紙・裏表紙写真

上左：五霊神社の調査風景（菱田哲郎撮影）

上中：旧神光寺跡の調査風景（菱田哲郎撮影）

上右：岩座神地区文書の調査風景（東昇撮影）

下：岩座神地区の棚田景観（安平勝利撮影）

裏表紙：神光寺仁王門と千ヶ峰（岸泰子撮影）



京都府立大学文化遺産叢書 第29集

播磨神光寺と岩座神地区の文化遺産

編集 菱田 哲郎（京都府立大学文学部教授）
岸 泰子（京都府立大学文学部准教授）
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2024年3月29日
印刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2